



■子どもも、先生も、いきいきと！

現在、働き方改革が社会問題となっています。学校も例外ではありません。文部科学大臣のメッセージを受け、現在、国や県からは、働き方改革についての通知文や改善策等が出されています。

本町では、これを受け「学校における業務改善プログラム」を策定しました。ここでは、その概要をお知らせいたします。

【学校における業務改善プログラム】

目的は「学校における働き方改革を通じた教育の質の維持・向上」である。

- 目標Ⅰ 過労死ラインとされる時間外勤務80時間以上の職員を0にする。
- 目標Ⅱ 平常時の時間外勤務の合計を月45時間以内とする。
- 目標Ⅲ 教職員の80%以上が「業務改善が進んでいる」と実感できる。

改善の視点1 【子どもたちと向き合うための時間の確保のために】

会合の統合や行事の見直し等を行い、仕事の総量を減らしながら内容の充実を図ります。

改善の視点2 【増えてくる学校教育の課題解決のために】

学校が特色ある教育活動を展開したり、生徒指導や特別支援教育等の課題に対応したりするために専門家と連携し、組織的な対応ができるようにします。

改善の視点3 【業務改善に対する意識を高めるために】

学校職員の時間管理を適切に把握しながら、定時退校日や退勤目標時刻を設定して、職員一人一人の業務改善意識を高めます。

改善の視点4 【心身の健康の環境づくりをするために】

メンタルヘルスチェックを実施したり、学校職員の相談窓口を示したりするなど、総合的な相談体制を整えます。



「中村さん、中村心さん。」優しい声が、薬局内にひびいた。

「オレンジ色の粉薬は、食後にのんでくださいね。この白色の薬は、熱が高くて体がきついときに飲んでください。お大事に。」

薬についての説明をしながら、てきぱきと薬を袋につめていく。「薬のことが分かっているすごいなあ。」「自分もこんな仕事がしてみたいなあ。」具合が悪いことなど忘れて、そんなことを考えていた。

先日、パラスポーツ選手の池田樹生さんのお話を聞く機会があった。池田さんは、両手と左足に障がいのある方だ。どんな話がドキドキしていたが、池田さんの前向きで、情熱的な話にすぐに引きこまれていた。その中で一番心に残っている言葉が、「練習をすれば、できるようになる。」という言葉だ。

「自分の夢をかなえるということは、暗いトンネルの中を進むことと一緒になんだよ。トンネルの向こうにぼおっと見える光を目指して、一步一步努力をすることが、とても大切なんだ。」

と池田さんは教えてくれた。わたしは、「ちょっと苦手だな。」と思うことに対して、すぐにあきらめてしまうことがある。夢をもつことはとても大切で、その夢に向かって練習や努力を重ねることは、より大切だということ学んだ。

わたしの将来の夢は、病気で不安な気持ちになった患者さんを、安心させられるような薬剤師になることだ。その夢を実現させるために、今の自分にできる精一杯の努力を続けていきたい。